第４学年　体育科学習指導案

日　時：令和６年５月１日（水）

第５校時　13:30～14:15

対　象：第４学年３組　　　25名

学校名：新宿区立淀橋第四小学校

授業者：教諭　　　　松木　秀実

会　場：校庭

**１　単元名**

鉄棒運動『鉄棒で体力向上！』

**２　単元の目標**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識及び技能 | 鉄棒運動の行い方を知るとともに、支持系の基本的な技を身に付けることができるようにする。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすることをできるようにする。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | 鉄棒運動に進んで取り組み、きまりを守り、誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 |

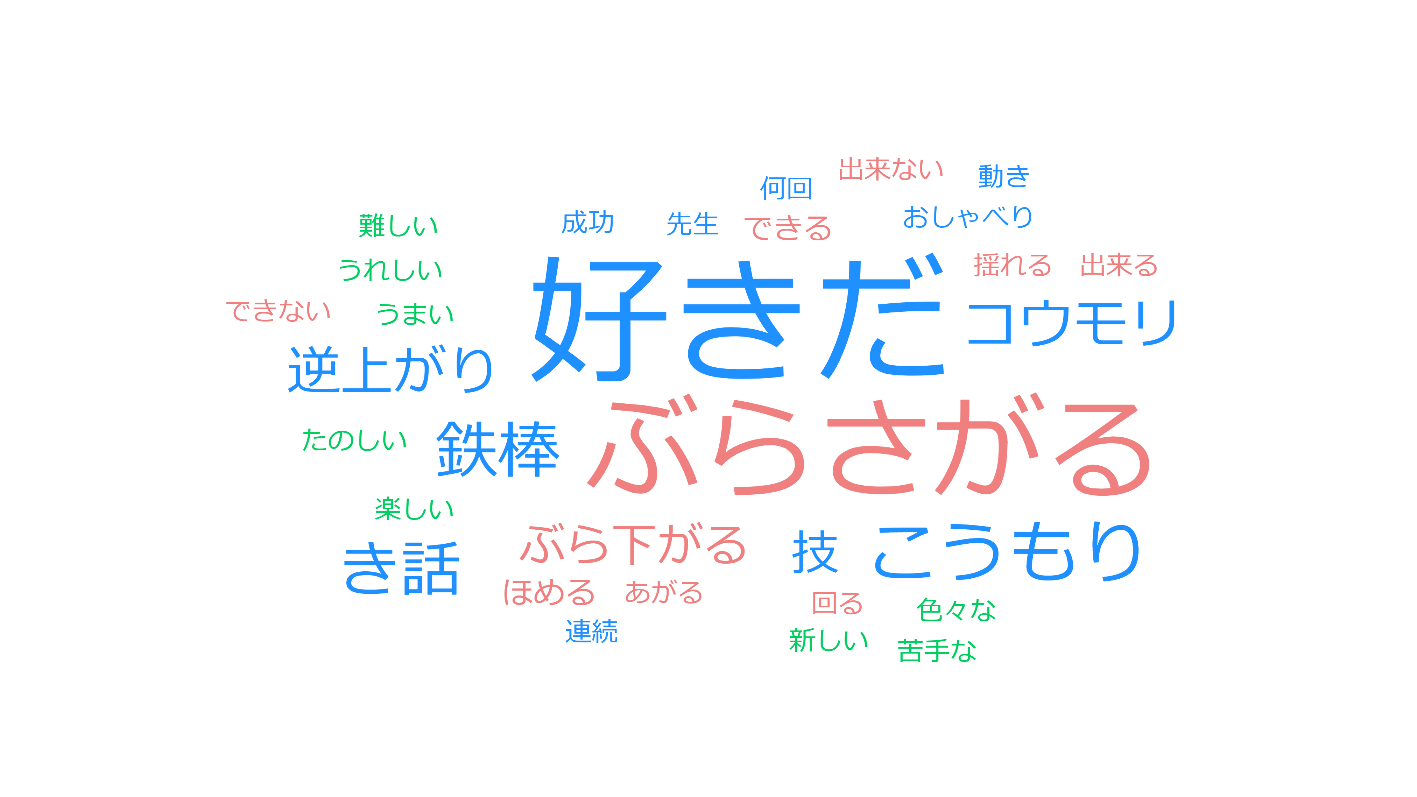
**３　単元の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 観点 | 単元の評価規準 | 学習活動に即した評価規準 |
| 知識・技能 | ①鉄棒運動の行い方を知るとともに，自己の能力に適した支持系の基本的な技をすることができる。  ②基本的な技に十分に取り組んだ上で，それらの発展技に取り組んだり，技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。 | ①鉄棒運動のいろいろな技の行い方を言ったり書いたりしている。  ②自分の力に合った支持系の基本的な技をすることができる。  ③基本的な技や、それらの発展技に取り組んだり、自己の能力に適した技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。 |
| 思考・判断・表現 | ①自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫している。  ②自己の能力に適した課題を見付け、その解決に向けて考えたことを友達に伝えている。 | ①学習カード、タブレット端末などを用いて、自分の課題を見付けている。  ②技のできばえを振り返って、自分の課題を見付けている。  ③良かったところや改善案など、課題解決のために考えたことを友達に伝えている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①運動にすすんで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたりしようとしている。  ②場や器械・器具の安全に気を付けている。 | ①鉄棒運動の基本的な技にすすんで取り組もうとしている。  ②動き方や気付いたことなど友達と伝え合う際に、相手の考えを認めるようにしている。  ③鉄棒などの器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときなどのきまりを守っている。  ④器械・器具の片付けを、友達と声を掛け合いながら一緒にしようとしている。 |

**４　児童の実態**

昨年度までの学習を振り返り、鉄棒についてのアンケートをテキストマイニングにかけると次のようなことが分かった。多くの児童が、ぶら下がる動きや回ることに着目していることから、鉄棒の技よりも運動遊びのような動きに楽しさを感じている児童が多く、技や体力についての意識は低いことが分かった。このことから、リズム鉄棒では、運動遊びの動きを取り入れ、児童が楽しみながら学習に取り組めるようにした。

また、成功体験や褒められた経験に楽しさを感じている児童も多くいる。ペアやグループで動きのポイントを確認し合い学習をすすめていくことにより、スモールステップで成功体験を積ませ、技ができた時の楽しさを味わわせたい。

**【単元前】**「鉄棒が楽しいと感じるときは、どんなときか」

第３・４学年では、上がる・回る・降りるといった支持系の基本的な技を身に付けることが求められている。第３学年では、ツバメやコウモリ等の鉄棒遊びを取り入れながら、前回り下り・抱えこみ前回り・ひざ掛け振り上がり・前方片膝掛け回転・補助逆上がりの技を学習している。しかし、児童によって技の習得の個人差は大きい。また、児童に身に付けさせたい４つの体力のうち、力強く体を動かす力や、巧みに体を動かす力を意識して鉄棒運動に取り組むことができている児童は少ないため、学習を通して、体力の意識をもたせていきたい。

**５　研究主題に迫るための手立て**

（１）体の動きを身に付けるための手立て

○主運動につながる運動の工夫～リズム鉄棒～

主運動につながる運動として、リズム鉄棒を行う。リズム鉄棒では、跳び上がりや跳び下りをしたり、ぶら下がりや易しい回転をしたり鉄棒運動の基本的な技や運動遊びなどに取り組ませる。音楽に合わせて取り組むことで、運動に楽しく親しむための雰囲気づくりを行う。本学級の実態として、運動遊びを好んでいる児童が多い。そこで、これらの動きを意図的にリズム鉄棒に取り入れることで、楽しく鉄棒運動に取り組み、鉄棒運動に対する苦手意識を軽減させ主運動への意欲を高めるようにする。また、リズム鉄棒でも学級を２つに分けて動きを確認し合うことで、鉄棒運動の基本的な動きを理解できるようにする。

〇運動遊びからの連係

鉄棒を両手でしっかりと握り、腕で体を支えるツバメは、鉄棒運動での基本姿勢である。ふとんほしは、支持回転技の基礎となる。このように、鉄棒を使った運動遊びは、鉄棒運動の基本の動きとなる。そこで、主運動においてスモールステップで技を習得できるよう、それぞれの技で基本の動きとなる運動遊びなどが書いてある学習カードを用意する。低学年から慣れ親しんでいる運動遊びを取り入れることで、鉄棒運動が苦手な児童も意欲的に活動に取り組むことができると考える。また、技カードには、コツとなる動きのポイントを明示しておき、ペアやグループの友達と教え合いながら学習を進めていくようにする。

（２）体の変化に気付くための手立て

〇振り返りの視点の焦点化

「体のどの部位を、どのように動かしたらできるようになったのか」といった視点で毎時間学習を振り返させることにより、動きの再現性を高めさせたり、個人内評価としての自身の成長を自覚させたりする。また、それをペアやグループで共有させることで、技に合った体の使い方を教え合ったり、次の学習の課題につなげられるようにしたりする。そして、単元の終わりに、鉄棒を通してどのような体力が高まったのかを単元始めと比較して振り返させることにより、自身の変容に気付かせる。振り返りに困っている児童に対しては、「幼児期に身に付けたい28の動き」から精選した鉄棒に関する動きの１０こを示す。その中からどのように体を動かしたら課題が解決できたかを振り返らせる。

〇子ども同士の言葉掛けの工夫

体の変化について、友達から教えてもらって初めて気付くことがあると考える。また、児童の運動に対する自己肯定感や意欲によって、気付きに大きく差が出ると考える。そこで、できていないことを指摘するよりも、できていたところに加えて「こうするとできるよ」といった改善案を具体的に伝え合うことが有効だと考えた。そのため、技のポイントをいつでも確認できるように技カードに明示する。また、技ができたときの体の使い方について児童から取り上げ、全体に共有する。それらを参考に、良かったところと改善案を伝え合う活動を積み重ねる。その際、取り組んだ技をペアやグループの仲間にタブレット端末で撮影してもらうことにより、視覚的に分かりやすくアドバイスできるようにする。

〇スモールステップによる課題解決的な学習展開

昨年度後半の児童の実態アンケートから、体力がついたと感じるときは「できる回数が増える」「できなかった技ができるようになる」だと分かった。そこを出発点として「鉄棒の技を成功させるために必要な力」について「体のどこをどう動かしたらできるのか」を追及し課題解決をしていく。技の系統性を資料として示し、自分の課題に合った場や練習方法を選択できるようにする。児童の実態に合わせ、技の系統性からできそうな技をスモールステップで取り組ませることにより、成功体験を積ませて運動の楽しさを味合わせる。単元前半では技の習得・習熟に重きを置き、単元後半では組み合わせ技に重きをおいた単元構成とする。このように、意図的に段階を追って、教師のねらいとする力が身に付くように単元を展開していく。

**６　児童から引き出したい言葉**

|  |  |
| --- | --- |
| 場面 | 児童の発話 |
| 主運動につながる運動 | ダンゴムシになるために、腕をまげ、膝を曲げてお腹に近づけよう。（ダンゴムシ）  目線を上にして顎が鉄棒より高くなるようにしよう。  お腹でなく腕で伸ばして体を支えよう。 |
| 主運動 | 腕を曲げてお腹と鉄棒を付けながら、勢いよく足を振りまっすぐに上げて鉄棒を超えるようにする。（補助逆上がり）  前に回るときに鉄棒を見るようにして頭を下げていき、優しく握った鉄棒で逆さまになったら手首を返そう。（片膝掛け回転）  腕を伸ばし上半身を立てることで勢いをつけ、掛けていない足を伸ばして大きく振り勢いよく回り、体を起こすときには体を丸めて起き上がりやすくしよう。（前方後方片膝掛け回転） |
| 振り返り | 動画を見ながら友達のアドバイスを聞くと、課題がよく分かる。  振り返りで体の部分を意識した話をしてきたから、どの部分を使うとよいか分かってきた。  前より腕が伸び回る勢いがついた。  前より足が上がって、回れる気がした。  あと少しで上体が鉄棒より上に行く気がした。 |

**７　指導と評価の計画**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **時間** | | **１** | | **２** | **３（前時）** | **４（本時）** | **５** | **６** |
|  | | **学習の見通しをもつ** | | **基本的な技の行いを知り、技に挑戦することを楽しむ** | | | **課題を解決するために工夫したり、技を繰り返したり組み合わせたりすることを楽しむ** | **学習のまとめをする** |
| **学習活動** | | 7共有したことを生かして、自己のできる技に取り組む。　 8本時の振り返り、次時への見通しをもつ。  9整理運動、場や器械・器具の片づけをする。　　 10集合、挨拶をする。 | | オリエンテーション  １集合、挨拶、健康観察をする。  ２本時のねらいを理解して、目標を立てる。  ３場や器械・器具の準備をする。  ４準備運動、主運動につながる運動（リズム鉄棒）をする。  ５鉄棒運動の転向前下り・両膝掛け倒立おりの技に取り組む。  ６課題解決のために工夫していること等をグループで共有する。  4準備運動、主運動につながる運動をする。（リズム鉄棒）  1 集合、挨拶、健康観察をする。　2 本時のねらいを知り、目標を立てる。　3 場や器械・器具の準備をする。  6 課題解決のために工夫していること等をグループで共有する。  〇課題の解決のために自己や仲間が考えたことを伝える。  5 鉄棒運動のかかえ込み前・後ろ回り、膝掛け振り上がり、片膝掛け回転、補助逆上がりに取り組む。  〇支持系の基本的な技の行い方を知る。  〇自己の能力に適した技を選んで行う。 | | | 6 鉄棒運動の自己の能力に適した技に挑戦する。  〇自己の能力に適した課題を解決するための活動を選んで、もう少しできそうな技に挑戦する。  〇基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組む。  〇課題の解決のために考えたことを伝える。  5 鉄棒運動のできる技を繰り返したり組み合わせたりする。  〇技の繰り返し方や組み合わせ方を知る。  〇自己の能力に適した技を選び、繰り返したり、組み合わせたりする。  〇課題の解決のために考えたことを伝える。 | 5 鉄棒運動で向上した自分の体力を発表する会を開く。  〇発表する技、技の繰り返しや組み合わせを練習する。  〇できるようになった技、技の繰り返しや組み合わせをグループ内で見せ合う。  6単元を振り返り、学習のまとめをする。  7整理運動、場や器械、器具の片付けをする。  8集合、健康観察、挨拶をする。 |
| **評価の重点** | **知識・技能** | |  | ①  観察 |  |  | ②  観察 | ③  観察 |
| **思考・判断・表現** | |  |  | ②  観察・学習カード | ③  観察・学習カード | ①  観察・学習カード | ②  観察・学習カード |
| **主体的に学習に取り組む態度** | | ③④  観察・学習カード | ①  観察 | ②  観察・学習カード | ②  観察・学習カード |  |  |

**８　本時の学習（３/６）（前時）**

（１）本時のねらい

　　・技のできばえを振り返って、自分の課題を見付けている。

・技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めるようにしている。

（２）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | ○教師の支援　◎評価　★指導上の留意点 |
| ８  分 | （導入）  １　集合、挨拶、健康観察をする  ２　本時のねらいを理解して、目標を立てる  技ができるようになるために、気が付いたことを伝え合おう。  ３　場や器械・器具の準備をする  　　・グループで協力して、準備をする。  ４　準備運動、主運動につながる運動（リズム鉄棒）をする | 〇活動を通して高めたい体力に意識を向ける  〇リズム鉄棒において、ペアがお互いにできているところを見つけて伝え合っているか、声掛けをする。 |
| 20  分  10  分 | ５　鉄棒運動の技に取り組む  ・グループに分かれて主活動に取り組む。  （主活動①）  　補助逆上がりに取り組む  　・グループで課題解決にむけて、助け合いながら練習する。  （主活動②）  前方片膝掛け回転・後方片膝掛け回転に取り組む。  　・グループで課題解決にむけて、助け合いながら練習する。 | 〇良かったところや改善案などの課題解決をグループで共有できるように促す。  〇考えたことを伝えていたり、励まし合おうとしたりしている様子を取り上げて称賛する。  ★苦手な児童に対しては、技カードやタブレット端末等を活用して、技のポイントについて対話しながら確認するなどの配慮をする。  ★逆上がりでは、技が身に付けられるように真上に足を振り上げたり、お腹に鉄棒を引き付けやすいように補助具を活用したりする。  ★前方片膝回転では、背中と腰を支える補助をして、手首を返した後に上がりやすいようにする。  ◎技のできばえを振り返って、自分の課題を見付けている。  ◎技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めるようにしている。 |
| ７  分 | （振り返り）  ６　本時を振り返り、次時への見通しをもつ  ・振り返りを発表して、仲間に伝える  ７　整理運動を行い、場や器械・器具の片付けをする。  ８　集合、健康観察、挨拶をする。 | 〇振り返りを学習カードに記入するよう伝えるとともに、気付きや考えのよさを取り上げて、称賛する。 |

**８　本時の学習（４/６）（本時）**

（１）本時のねらい

　　・良かったところや改善案など、課題解決のために考えたことを友達に伝えている。

・技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めるようにしている。

（２）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | ○教師の支援　◎評価　★指導上の留意点 |
| ８  分 | （導入）  １　集合、挨拶、健康観察をする  ２　本時のねらいを理解して、目標を立てる  自己の能力に適した技に挑戦しよう。  ３　場や器械・器具の準備をする  　・グループで協力して、準備をする。  ４　準備運動、主運動につながる運動（リズム鉄棒）をする | 〇活動を通して高めたい体力に意識を向ける  〇リズム鉄棒において、ペアがお互いにできているところを見つけて伝え合っているか、声掛けをする。 |
| 10  分  20  分 | ５　鉄棒運動の技に取り組む  ・グループに分かれて主活動に取り組む。  （主活動①）  　補助逆上がりに取り組む  　・グループで課題解決にむけて、助け合いながら練習する。  （主活動②）  前方片膝掛け回転・後方片膝掛け回転に取り組む。  　・グループで課題解決にむけて、助け合いながら練習する。 | 〇良かったところや改善案などをグループで伝え合うように促す。  〇考えたことを伝えていたり、励まそうとしたりしている様子を取り上げて称賛する。  〇学習資料やタブレット端末を活用して、技のポイントについて確認しながら取り組めるようにする。  ★苦手な児童に対しては、技カードやタブレット端末等を活用して、技のポイントについて対話しながら確認するなどの配慮をする。  ★逆上がりでは、技が身に付けられるように真上に足を振り上げたり、お腹に鉄棒を引き付けやすいように補助具を活用したりする。  ★前方片膝回転では、背中と腰を支える補助をして、手首を返した後に上がりやすいようにする。  ◎良かったところや改善案など、課題解決のために考えたことを友達に伝えている。  ◎技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めるようにしている。 |
| ７  分 | （振り返り）  ６ 本時を振り返り、体のどの部位をどう動かしたら、技ができるように近づいたかを共有する。  ７　整理運動、場や器械・器具の片付けをする。  ８　集合、健康観察、挨拶をする。 | 〇振り返りを学習カードに記入するよう伝える。  〇書く内容に困っている児童には、学習カードに示されている文例を参考にさせる。または学習資料に記載されている技のポイントを示し、「体のどこをどう動かしたらできたのか」具体的に想起させる。 |

９　協議の視点

（１）体の動きを身に付けるための手立ては適切であったか。

（２）体の変化に気付くための手立ては適切であったか。

（３）児童の発話や記述から体力の向上につながっていると感じられるものは何があったか。